

I 研究主題について

研究主題『秋田型授業をモデルとした授業改善による、主体的で対話的に学ぶ生徒の育成』

①生徒の実態と課題

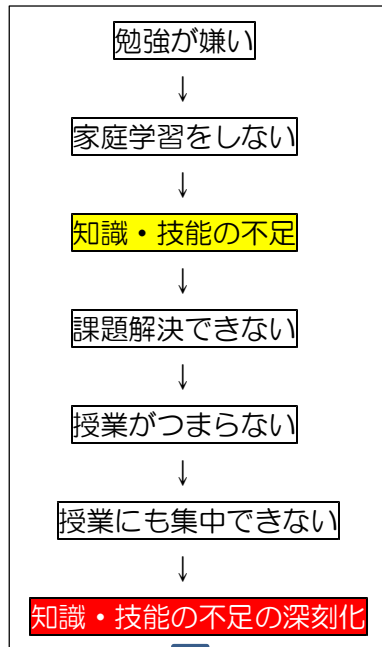
開校から3年間の全国学力学習状況調査では、国語の平均点は全道、全国レベルに達することがあったが、数学はかなり厳しい状況であった。特に、一部の生徒は、知識・技能の不足が深刻である。

生徒質問紙の結果から、国語や数学が大切だと思っている生徒が多いが、家庭学習の習慣が定着している生徒は少ないことがわかった。つまり、

本校生徒の課題は、『できるようにになりたいが勉強はしたくないし、点数もとれない。』となる。

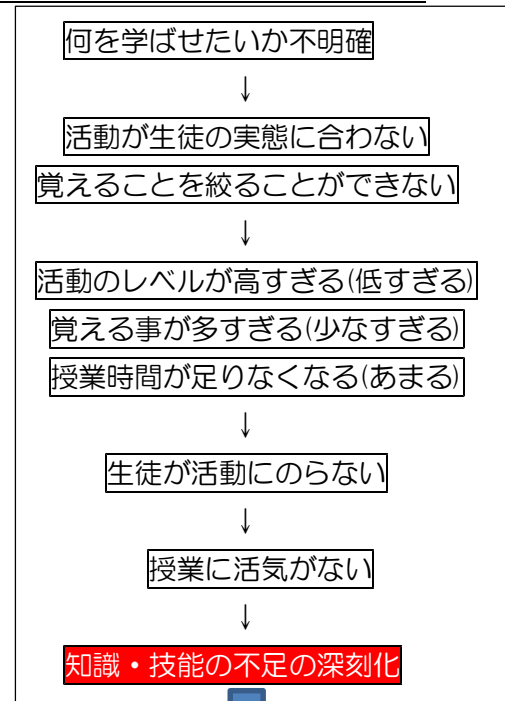
②研究主題設定の理由

本校生徒の課題を下のように整理した。



これらの負のスパイラルを断ち切って、学力を向上させるためには、自分から意欲的に（主体的に）勉強をする必要がある。主体的に勉強をするためには、『授業が楽しい』、『勉強が好きだ』と思える様な授業や環境が必要である。だから、教師も授業改善に取り組む必要がある。（教師の課題）

楽しい授業をするための教師の課題

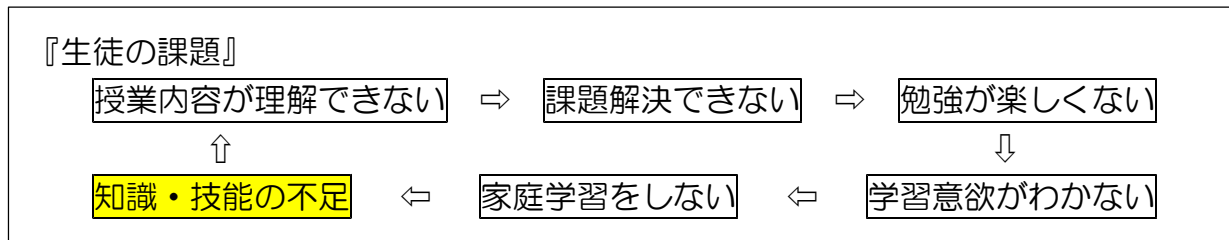


教師が何を学ばせたいか不明確なことによって、知識・技能の不足がより深刻化することが予想される。逆に、明確にすることで、多くの課題が解決され、『授業が楽しい』、『勉強が好きだ』と感じる生徒が増え、負のスパイラルを断ち切ることができる。

このような理由から、

研究主題を『秋田型授業をモデルとした授業改善による、主体的で対話的に学ぶ生徒の育成』と設定した。

Ⅱ 主題に迫るために

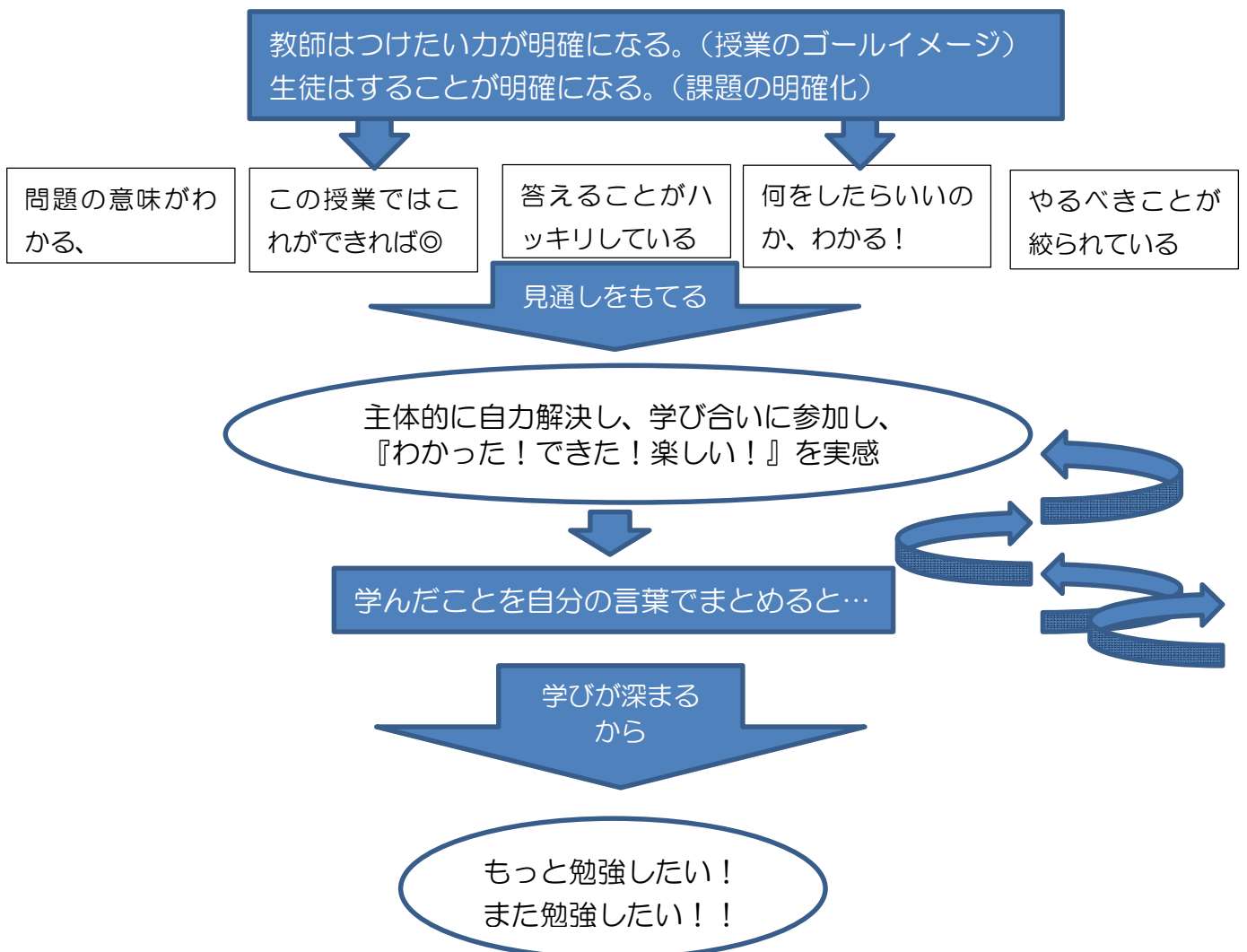


秋田型授業をモデルとした授業改善による、主体的で対話的に学ぶ生徒の育成

『課題に正対したまとめ』

『問題提示』 → 『課題提示』 → 『見通す』 → 『自力解決』 → 『学び合い』 → 『まとめ』 → 『振り返り』

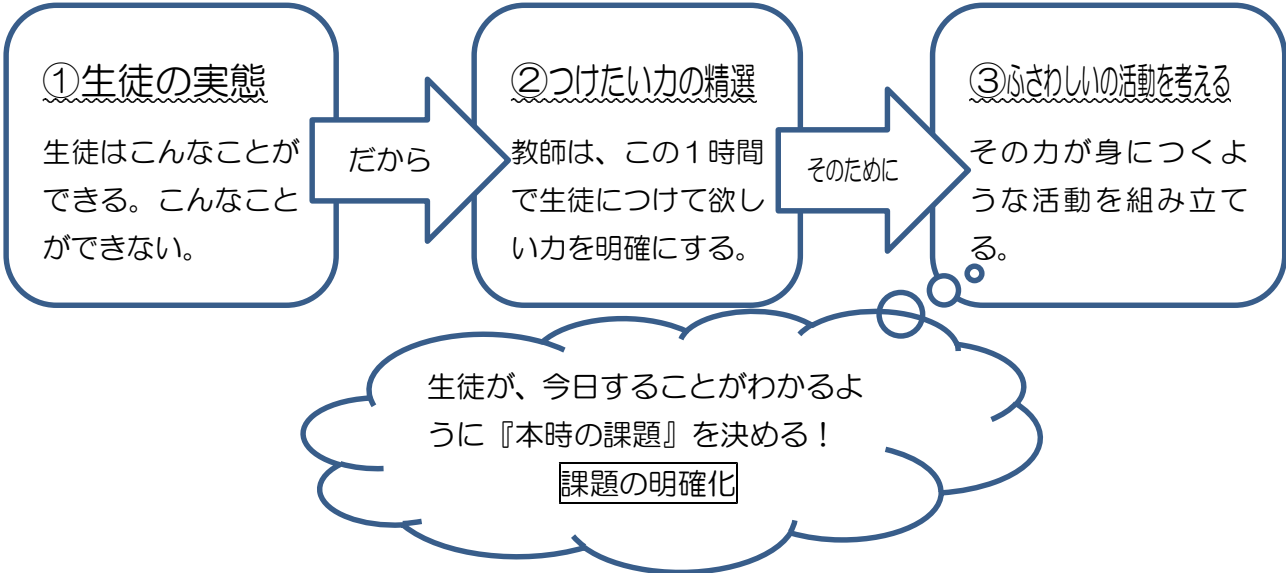
『課題の明確化』



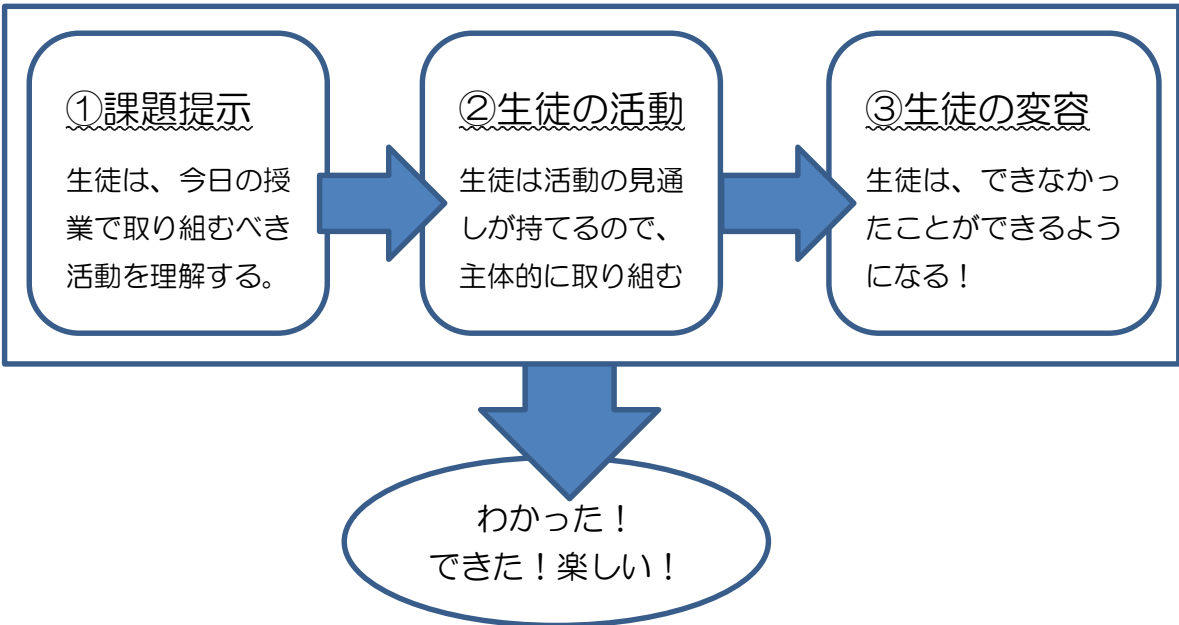
Ⅲ 『課題の明確化』の具体的な研究内容

『課題の明確化』に取り組むことで、授業の目標をはっきりさせよう！

1. 本時の課題の決め方



2. 『本時の課題』を決めて授業に臨むとこんないいことがある！



3. 『つきたい力』について注意事項

- 『学習指導要領』や国立教育政策研究所発行の『評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』を踏まえる。※1時間で、1つの観点に絞る（焦点化）

IV 『課題に正対したまとめ』の具体的な研究

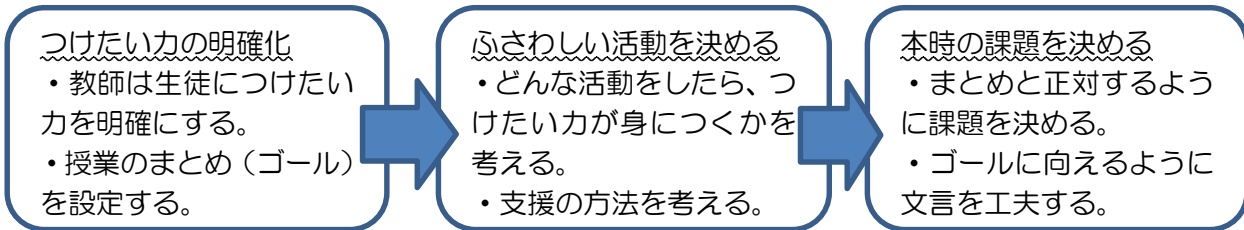
『課題提示』の後に『見通し』を持たせることで、『まとめ』に向かう活動にしよう！

見通しには『結果の見通し』と『方法の見通し』の2種類があります。

結果の見通し→答えがどうなりそうか。 方法の見通し→どうすれば解決できそうか。

*H30年度能代市視察報告会での指導主事の講話より

1. 授業の作り方（後ろから前につくっていく）



2. 具体例

内容	分母の有理化 (数学)	説明文の読み取り (国語)	曲の特徴を捉える (音楽)
まとめ	<u>同じ数を分母と分子にかける事で大きさを変えずに有理化できる。</u>	<u>接続語・キーワードに注目すると段落の関係がわかりやすい。</u>	①曲調は <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ②強弱は <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ③歌詞は <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
見通し	大きさを変えずに、分母を変えるには通分を使う。	どうすれば <u>段落の関係がわかるだろう？</u>	観点を発表させる。 ①曲調②強弱③歌詞
課題	<u>大きさを変えずに分母から√を消すにはどうしたらよいか？</u>	(段落)構造図をつくろう	<u>曲の特徴は何だろうか？</u>

3. 後ろから前につくっていくとこんなメリットがあります！

- ・ゴール（まとめ）を先に設定するので、教えるべき内容がぶれない。
- ・観点を意識して授業を行えるので、課題からまとめまでの流れが明確となる。
- ・ゴールがきまっているから、発問や学び合いを工夫することができる。



生徒が「わかる」授業になり、主体的に学ぶことができる。

V 『学び合い』の具体的な研究内容

生徒同士の学び合いを成立させるように授業を作ろう！

1. 学び合いの作り方

学習過程

『問題提示』→『課題提示』→『見通す』→『自力解決』→『学び合い』→『まとめ』→『振り返り』

見通す

- ・個別解決の時にすることがわかるように。
- ・ヒントはあっても、全員解決の必要はない。

自力解決

- ・1人で課題解決に取り組むことで、生徒自身ができること、できないことが明確になる。

学び合い

- ・グループや一斉で、交流したり、まとめたり、発表したりすることで理解を深める。

2. 学び合いの留意点

- ①『見通す』場面では、自力解決のときにとまる生徒が0人になるように工夫する。
- ②『自力解決』では、全員が正解にたどり着く必要はないが、途中まででも自分の考えを持たせる。自力解決の時間を決めておいて時間になったら、『学び合い』に進み、その中で各自が解決できるように進める。
(能代の指導主事がタイムマネジメントの観点から自力解決に必要以上に時間をかけないほうが良いと、言っていました。)
- ③『学び合い』は『生徒(発表)→先生(問い直し)→生徒(返答)』の流れだけでなく、生徒同士で学び合いが成立するような工夫をする。
- ④すべての時間で学び合いをする必要はない。必要に応じて行ってください。

工夫の例

- ①グループでワークシートに記入→ICT機器の活用し交流
 - ②グループでミニホワイトボードにまとめる→黒板に貼って交流
 - ③グループで模造紙に書く(付箋を貼る)→前に出てきて発表
 - ④ペアワーク→学習形態を変えて交流
- ・グループで何かを作成することで、話し合いの目的が明確になり、ルールや役割分担も作りやすくなると思います。また、学び合いの結果を可視化し、交流することで、自己評価や相互評価を促し、次の活動への意欲の喚起や目標の設定につながる。
 - ・ペアワークでは、『練習する』、『説明し合う』、『相談する』などの活動が考えられる。グループに比べて活動の頻度が増える。移動の必要が少ないなどのメリットが考えられる。
 - ・『学び合い』から『まとめ』を引き出せるように、コーディネートする必要がある。

学び合いの手順

学び合いの前に、自力解決で自分の考えを持たせる。(そのための課題、見通す場面での工夫を！)

1. 適切に学習形態を決める。

- ①ペア（答えが決まっているとき）
- ②グループ（多様な考え方が出やすいとき）
- ③一斉（自力解決の様子を見て、考えが出ない、出にくい時）

2. ルールと手順を守って考えを出し合う。

ルール

- ①ちゃんと向いて聞く。
- ②否定しない。バカにしない。
- ③丁寧な言葉で話す

手順（グループの場合は司会を決める）

教師が学び合いの目的（ゴール）を示す。

生徒は①～③の手順で学び合いを行う。

- ①ワークシートやノートを見せながら全員発表する。
- ②学び合いの目的（ゴール）を達成するために活動する。
- ③赤ペンで答えを直したり、良いと思う考えを書き加えたりする。

3. 学び合いの視点と目的(ゴール)を明確にする。

	学び合いの視点	学び合いの目的（ゴール）
①	互いの考えを比較する	・賛成・反対など2つに分かれて、共通点や相違点を見つける。 ・賛成・反対など2つに分かれて、議論し1つにまとめる。
②	思考を表現に置き換える	・ホワイトボードに考えをまとめる。 ・付箋を使って考えをまとめる。
③	多様な手段で説明する	・ICT 機器、ホワイトボード、黒板等を使って、説明する準備をする。
④	協働して課題を解決する	・役割分担をして課題を解決する。 ・わからない部分を教え合う。 ・わからない部分を一緒に考える。
⑤	共に考えをつくり上げる	・効率的な解決方法を選ぶ。
⑥	多様な情報を収集する	・調べたり、考えた結果を交流する。
⑦	先哲の考え方を手掛かりとする。	・

*これらの学び合いの視点を使って、生徒が『聞く→考える→話す』ことで『対話的な学び』に繋がるようです。学び合いの視点をもとに、学び合いの目的（ゴール）をつくりました。4月から校内研修で取り組みますので、ぜひ授業の中に取り入れて下さい。

VI 『振り返り』の具体的な研究内容

1. 振り返りとは…

【H29年度白老教師塾 能代市指導主事の講演から】

振り返りの時間の中で

- ・生徒は達成感を味わい、自分の成長を感じる。
- ・先生は生徒の学習を評価し、本字の価値を確認する。

【白スタ3授業改善編から】

振り返りの場面で

- ・見通しや学びの場面における課題解決に有効だった方法や考え方について、視点を与え、記述させる。自己の変容や友達の考えの良さに気付かせ、学ぶ意欲や学んだことを活用しようとする態度を育てる。

2. 振り返りの方法

- ・練習問題、評価問題、チャレンジ問題に取り組む
- ・授業の最後に先生が『〇〇についての振り返りを書きましょう』と指示を出して、視点を与え、生徒に自分の言葉で振り返りを書かせましょう。
- ・授業の最後に先生が『今日の授業を受けることでこんな力がつきます。』と確認する。

3. 振り返りの視点（教務で教室に貼ってくれました！！）

- ・どんな方法で取り組んだか
- ・わかったこと
- ・自分の考えがどう変化したか
- ・仲間の良かったところ
- ・学んだことをどう活用するか
- ・もっと知りたいこと

4. 振り返りに取り組む良さ

【H28、H29、H30年度白老教師塾 能代市指導主事の講演から】

- ・生徒がその時間に身に付いた力を実感することで、学ぶことの喜びや楽しさを実感することができる。（生徒による授業の価値づけ）
- ・教師がこの授業はどんな意味があるのかを改めて生徒に伝えることで、授業の意味を明確にすることができる。（生徒による授業の価値づけ）
- ・指標2「生徒質問紙『自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか』において、肯定的な回答を前年度比+10ポイントにする。」に対して、日常的に自分の考えを書くことは有効な取り組みであると考えられる。

秋田型授業の学習過程のモデル

